

鶏肉ドリップ中のサルモネラ増殖モデルの汎用性

成果の特徴

- 鶏肉ドリップで取得したデータとその増殖モデル式は、その他の鶏肉形状においても活用できることが期待されます。
- サルモネラの交差汚染シナリオを想定した場合での適応性も同時に評価した。

成果の内容

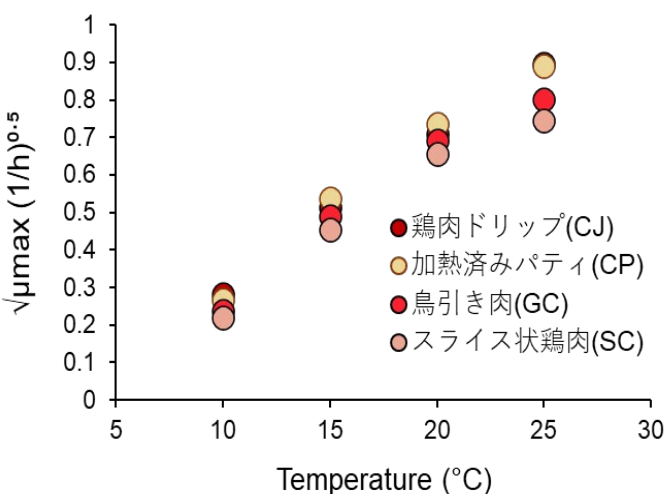


図1. さまざまな鶏肉サンプルにおけるサルモネラの増殖速度と培養温度の関係

Parameters	CJ	CP	GC	SC
R ²	0.997	0.984	0.972	0.967
Slope	0.041	0.042	0.038	0.036
Y-int	-0.114	-0.118	-0.108	-0.102
Tmin	2.8	2.8	2.9	2.9

表1. 平方根モデルによって記述された、サルモネラの増殖パラメーター値

想定される用途・連携希望先

- 鶏肉製品の安全性と品質に関する検討や、フードチェーン全体での増殖リスクの評価に役立つと考えられます。
- 鶏肉加工環境に直接関係している企業・業界との協力を望んでおり、鶏肉の取り扱いや加工条件に関して、実際のデータが取得できる方との連携を望んでいます。

参考

Noviyanti F, Mochida M, Kawasaki S (2024) *Journal of Food Science* 89, 2410-2422.

担当研究者：Fia Noviyanti
所 属：食品研究部門
食品流通・安全研究領域

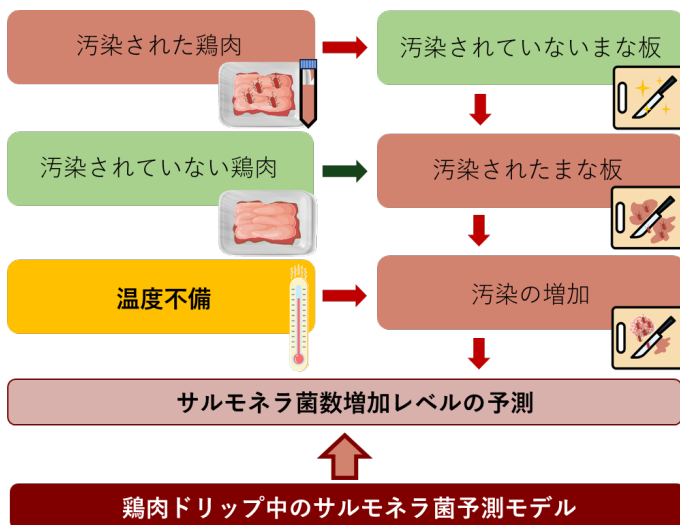


図2. 交差汚染シナリオの例（シナリオ5）

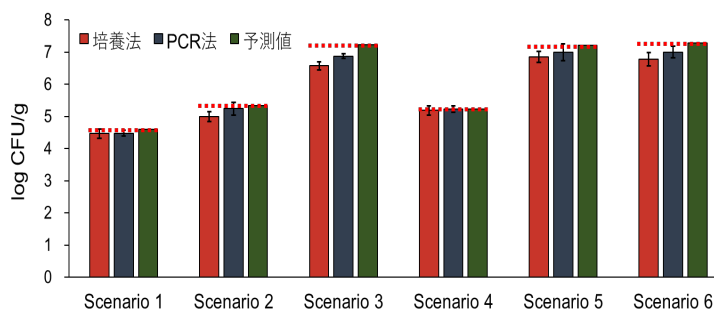


図3. 鶏肉取扱過程での交差汚染のシナリオを想定した場合の増殖予測値と実測値